朝刊を読んでいたら
喜怒哀楽・安心不安
満載なのに　大安・吉日
選んでいる人がいる

鈴木章子著「癌告知のあとで」より

ひかり

No.110
2020(令和2)年
3月1日
発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
藤本使朗

稚児行列に参加して良い思い出になりました　光専寺住職継承奉告法要にて

ヒダカくん・ひかりちゃんの『御文章』のお話　その13

永原智行

出家発心の章（前号のつづき）

ひかりちゃん　「信心を得ている位」ってどんな位？

ヒダカくん　正定聚（しょうじょうじゅ）というよ。これは、平生において信心が定まるときに往生が定まった身になる」ということなんだ。

ひかり　他宗では、阿弥陀さまのことを「お迎え（来迎）」の仏様としてあるけど。

ヒダカ　お迎えというけれど、死へ誘うというのではないよ。臨終というのは死に臨むこと、死にぎわ、まつご、いまわのきわをいうんだけれど、これは平生からお念仏をした人が、死を心静かに迎えて、阿弥陀さまの来迎を感得し、仏から「そなたを極楽に連れてゆく」といわれるときに往生が決まるんだよ。この考え方は浄土教の常識だったんだ。

ひかり　平安時代に栄耀栄華を誇った藤原道長（ふじわらのみちなが）が死に臨んで、お寺を建て、阿弥陀さまと自分を五色の糸で結んで、極楽への往生を臨んだのはその浄土教がベースになっているのよね。

ヒダカ　よく知っているね。道長は自分のためにお寺を建てたんだ。そんな人でも死は怖く仏様を拝んだんだ。

ひかり　また、あらゆる宗派でも、火葬場では阿弥陀さまを拝むわね。

ヒダカ　阿弥陀さまは、本願を信ずる人を無条件に光明に摂取し、浄土に導いて下さるんだ。死を臨むときに「極楽につれていく」というような許可などは本来言われないし、本筋ではないんだ。藤原道長のように臨終来迎を待つ人は、自分は浄土に往生できる自信のある人で、自力の功績をあてにするひとだろうね。

ひかり　自分で浄土に往生できる自信を持つなんて、高い保険金を払ってるから安心するみたいなものね。

ヒダカ　実際はこのような私でも、阿弥陀さまによってお浄土に往かせていただき導かれているんだ。

ひかり　私たち凡夫はついつい「高い保険を払う」ことしか考えないけど。

ヒダカ　その高い保険金つまり自力の行には上限がないんだ。どれだけがんばっても往生できる基準なんて決められないんだよ。

和歌山 日高組　検索

法話　御恩

記念すべき令和元年も終え年末には各地で恒例の除夜の鐘が撞かれました。しかし元号が改まれど相変わらず毎週のように親が子をあやめたり、逆に子が親をあやめたりという凄惨な事件の報道があとを絶ちません。「人とは本来誰かに案じられている」ものです。親、先生、友人、恋人、阿弥陀さん。

親鸞聖人が師と仰ぐ七高僧の第四祖である道綽禅師の『安楽集』に、このようなお言葉があります。

前（さき）に生まれんものは 後（のち）を導き、後に生まれた者は後に生きる人を導き、後の世に生きる人は先人の生きた道を問いたずねよ」ということです。お互いに尊重しあえば誰かに案じられていることに気付き、その時に生じるのが御恩報謝の心です。浄土真宗のご法義の要（かなめ）である「信心正因　称名報恩」の称名は、現世利益や加持祈祷の類いの称名ではなく御恩報謝のお念仏です。

ここにおかげさまという詩があります。

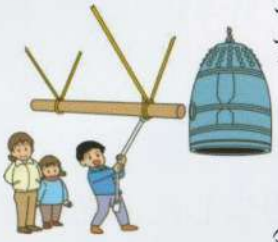
おかげさま

冬がくると夏がいいという、
夏になると冬がいいという。
太ると痩（や）せたいという、
痩せると太りたいという。
忙しいと閑（ひま）になりたいという、
閑になると忙しいほうがいいという。
自分に都合のいい人は善い人だと誉め、
自分に都合が悪くなると悪い人だと非難する。
良い結果が出れば自分の手柄にし、悪い結果が出れば人のせいにする。
借りた傘も雨があがれば邪魔になる。
金をもてば古びた女房が邪魔になる。
世帯をもてば親さえも邪魔になる。
衣食住は昔に比べりゃ天国だが、
上を見て不平不満に明け暮れ、
隣を見ては愚痴ばかり。
どうして自分を見つめないのか、
静かに考えてみるがいい。
いったい自分とは何なのか。
親のおかげ、先生のおかげ、世間様のおかげの塊
（かたまり）が自分ではないのか。
つまらぬ自我我執を捨てて、得手（えて）勝手を慎んだら世の中はきっと明るくなるだろう。
おれがおれがを捨てて、
おかげさまでおかげさまでと暮らしたい

冒頭に挙げた除夜の鐘は108の煩悩を滅却する為に撞くと言われていますが、我々の様な凡夫にそのようなことが可能でしょうか。

「正信偈」の一句にありますように
不断煩悩得涅槃（煩悩を断ぜずして涅槃を得る）
煩悩を持ったそのままでいいんだよというこの阿弥陀さんの有り難いみ教えに御恩を感じて生きていきたいものです。ゴーンゴーンと聞こえる除夜の鐘の音も、『御恩御恩』と聞きたいものです。

（湯川）



妙願寺　入棺体験

12月7日（土）「第4回大人の寺子屋」が日高町志賀の妙願寺で開催され、10名が参加して「死の疑似体験」をしました。

「大人の寺子屋」は4年前から総代会主催で年4回開催され、やさしい仏教入門、仏事作法や仏教雑学など、毎回テーマを決めて歓談をしながら楽しく学んできました。

昨年1年間は「死の疑似体験」をテーマに形のある大切なもの・大切な活動・大切な人・形のない大切なもの。この4領域から3つずつ選んで12枚の紙に書く

私自身の病気の体験と父の死の体験を織り交ぜて語り、毎回死に近づいてゆくのです。話し終えるとその都度3枚づつ紙を破り捨てます。破ってゆく過程で、本当に大切なものは何だったのか。何のために生きてきたのか。このような問いを自らに突きつけ、その答えを求めて苦しみます。そして、何を捨てたのか、何を大切にしているのかなど参加者同士で話し合うのです。

ちなみに、最後に残ったのは「妻」「家族」「愛」などでした。これらの最後の一枚も破り捨てなければならないのです。

どんなに大切にしていても、いつかは全てを捨てるときがやってきます。

破り終えた後、いよいよ入棺体験をします。みなさん入棺に躊躇するかと思いきや、4名の参加者が我先にと棺に入れられました。入棺者を参加者全員で納棺するなど本番さながらの体験でした。

1年間、死の疑似体験のワークショップを通じて得たものは、参加者同士で死生観や命の在り方を学び、そして最後はやはり棺の中に収められ、大切な人たちに見送られて別れていかねばならない自分であったと思えたことです。

今後はさらに参加者を広げて、多くの方々と「死んでしまいにならない」生き方を共に味わってゆきたいと思います。

それにしても棺桶は意外と狭かったですよ。

（楠原）

貴重な入棺体験をしました

シリーズ「過疎問題を考える」

妙願寺　楠原晃紹

昨年のことでしたが、80代後半のご門徒からこのような悩みを聞かされました。軽トラのキーを息子に取り上げられ、その後息子同伴で運転免許証を自主返納した。これまで自由にどこにでも行けていたが、今は自転車で行かなくてはならないことに人生つまらなくなったと嘆いておられました。

高齢者の交通事故など社会問題となっている昨今、過疎地域に住む私たちが自動車を運転できなくなればどういうことになるのか想像はたやすくつきます。私の自宅から最寄りのバス停まで約2キロ弱、内原方面行きのバスは朝夕合わせて一日5便、買い物、通勤、通院、金融機関など全ての生活がままならなくなります。徒歩圏内にはコンビニやスーパーはもちろん、銀行もありません。せいぜいタバコ屋と郵便局が2キロ先にあるくらいです。

人口減少社会、少子高齢化社会は全国共通の問題です。教区内の過疎地以外に住む住職も、過疎化が進んでいるのでご門徒の数が年々減少しているとしきりに話されます。しかしそれは単に人口が減少し、少子高齢化が進んでいるだけであって過疎ではありません。過疎というのはその地域の人口が大幅かつ急激に減少したがために不活性化し、それまでできていたあらゆる機能が低下し、生活を続けることが困難な状況であることを指すのだと思います。つまり、バス路線が廃止され、スーパーがなくなり、代わりとなるサービスなどもなく、その結果、住み慣れた地域で生活しづらくなることです。それこそ生活破壊なのです。

それは住民の物質的満足感のみならず、精神的な不安要素でもあるでしょう。例えて言うなれば、軽微な用事でも往復タクシー利用することが、年金生活者の家計に大きな負担となります。過疎地の住民の思いは、そこに足を踏み入れて生活してみないと分からないのです。

前号では「信心の過疎化」を取り上げましたが、過疎による精神面での不安要素が解決しなければ、お寺の護持やお参りすらままならないのではないでしょうか。それにより寺院の運営に影響が出るのは当たり前です。

仏教・真宗の教えは、今私が抱えている苦悩や問題に応用できなければ意味はありません。自他共に心豊かに生きることのできる社会を実現するために、いったい我々に何ができるのでしょうか。過疎対応支援員として過疎地の現状をじっくり検証していくなかで、自坊の残された可能性を模索し、寺院活性化、存続のために何をすべきかを問わなくてはならない状況にあることは確かです。

ご門徒の皆さんと共に、地域活性、寺院活性に繋がる名案（アイデア）を語り合う機会が、特に過疎地にある寺院で頻繁になされることを期待したいと思います。

法悦クイズ

Q. なぜ年忌法要を勤めるのでしょう？

次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。

①亡き人が寂しがっているから
②勤めないと亡き人が迷うから
③亡き人を縁に仏の教えを聞く

109号の正解は「③薩摩（今の鹿児島県）」でした。
〔解説〕徳川家康が天下を取り、戦乱に終止符を打ちましたが、江戸・京都から遠く離れた薩摩では、いまだ不安定な要因を抱えていました。それが浄土真宗の信仰だったのです。
禁じられた期間は、なんと1597年から1876年までということです。

由良町　松下光男　様
日高町　濱　幸治　様
由良町　中崎エミコ 様
由良町　井口きよみ様
由良町　中口小夜美様
由良町　平林道子　様
由良町　曽根益子　様
御坊市　塩田廣一　様
由良町　畑中靖子　様
日高町　小谷順子　様

ホームページ、またはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、紙面についてのご感想ご意見等を明記の上、下記までお送り下さい。
〒649-1221
和歌山県日高郡日高町志賀2988番地
妙願寺内　日高組事務所　宛

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

締切　2020年5月20日（必着）
発表は次号です

住職継承奉告法要を機に子ども若者にご縁づくり

光専寺（北山憲昭住職）ではこのほど住職継承奉告法要が営まれ、町内寺院、門信徒、稚児と父兄らが集まり厳粛かつ盛大な法要となりました。

この法要では、親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年お待ち受け法要、並びに二〇一七年に倒壊した鐘楼の再建記念法要も併修され、門信徒らの喜びも一層大きな一日となりました。次世代を担う子ども若者らも参加し、この法要を機にご縁づくりがなされました。

由良　光専寺

庭儀と稚児行列

この日、町内外からお稚児さん約50名が保護者らに付き添われて庭儀に参加、横浜区内の沿道は大勢の方々が見守るなか稚児行列で賑わいました。

音楽法要では、献灯献花献香やエレクトーン演奏、繞鉢（にょうはち）など子ども達が中心となり、華やかな法要となりました。

（広報部）

“煩悩”を　差別の言い訳にする　愚かさよ

音楽法要に伝供衆の子ども若者も参加

昨年11月17日、由良町横浜北方山光専寺にて、第14世住職の継職奉告法要を門信徒様、有縁の法中様方のご臨席のもとに勤めさせていただきました。

天候に恵まれ、午前中は、庭儀宿でのお勤め後、華やかな雰囲気の中稚児行列が行われました。

行列参加者、沿道に来られた方々とも穏やかな笑顔で溢れていました。午後は豪華にお荘厳された本堂で、散華舞い散る煌びやかな音楽法要が行われました。

法要後、盛大にお餅まき、祝賀会とありがたく贅沢な時間が過ぎていきました。

当山の歴史を顧みれば、浄土真宗の法灯が掲げられて以来歴代住職は宗祖親鸞聖人の教えを仰ぎ、み教えの弘通に怠ることなく専念されてきました。門信徒様、お同行もよく住職の心を汲み、ともに協力してご法義の相続と繁昌に努めてこられました。

私の父は生涯を通して私たちにお念仏のこころを示してくれていましたが、平成30年夏にお浄土へ往生いたしました。

当山は先人の努力によって聞法の道場として発展してきました。これもひとえに仏祖のおかげであります。

仏法が私たちの煩悩をくだき、身心を照らしだしてくださっていることを、門信徒、有縁の方々と味わいお伝えすることが私の使命だと感じています。とはいえ、まだまだ浅学非才であり、その力は十分ではありません。仏祖のご加護を仰ぎつつ、また、歴代住職の足跡をたどりつつ、門信徒様、有縁の方々のご助力を得ながら、み法の灯を絶やさぬようにひたすら努め、自信教人信の歩みを重ねていこうと思います。

（北山）

門徒心得

年回忌法要は誰のため？

一周忌、三回忌、…と年忌法要をお勤めします。

法事の目的は「亡き人のためにお勤めする」と思いがちではないでしょうか。

日頃、何かと忙しく時間に追い立てられ生活に疲れ、亡き人を偲ぶこともままならなくなると、「寂しがっているだろうな」「申し訳ないな」はたまた「怒っているだろうな」などと心配される方もおられるのではないでしょうか。年忌法要を勤める目的は仏さまの教えに私自身が触れること、仏様の救いに預かることにあるのです。

「年忌法要をしなければこの世で迷ってしまうんじゃないか」などと心配されなくても大丈夫です。

私達は教えを聞くことによって、亡き人は阿弥陀仏の浄土に生まれ、ご自身も仏となって、日々を生きる私達のために心をかけてくださっている存在であることを知らされます。そして、「阿弥陀仏の救いを頼りに人生を精一杯生き抜き、やがては浄土で会おう」と願われているのが亡き人だ、と味わえてくることでしょう。（北山）

和歌山 日高組　検索

れんけんだより

日高組第10期門徒推進員養成連続研修会（れんけん）は、2月で第7回を迎えました。この研修は2年間で12回の連続研修を受講します。毎回テーマに沿った「話し合い法座」を行い、自他の思いをそれぞれ班内で討議しています。

現在26名の皆さんがれんけんで学び、今年の12月には修了する予定です。

れんけんは日々の生活の中で湧いてきた疑問や人生の諸問題について皆で話し合い、仏さまの教えに問いたずねてゆく研修です。

声明（おつとめ）の練習

研修内容は、まず声明（おつとめ）の練習を行います。正信念仏偈六首引のおつとめが中心で、声明担当の片桐師から毎回音程やテンポなどの指導を受けるのです。

教学部門では今回は正信偈の後半部分、七高僧の論説について担当の藤田眞雄師より解説され、受講された皆さんも熱心にレジュメを確認していました。

話し合い法座は約1時間。今回のテーマは「自分だけが幸せでよいのでしょうか」について、楠原師の問題提起に始まり、班別での話し合いを行いました。

ともすると自分や家族の幸せしか考えられない世の中、他人や困っている人のために尽くせることって何？、無財の七施って。

参加者同士で話し合ううちに、自己中心にしか生きられない自身に気づいてゆくのかも知れません。

まとめの法話では結論は話してくれませんが、自他ともに心豊かに生きることのできる社会になれば幸せな人生になるのではとあらためて感じました。

実践　日高組 実践運動推進委員会

私たちのちかい・食事の言葉を家族全員で唱和しましょう！

食事のことば

食前のことば　合掌

●多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。

（同音）深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

食後のことば　合掌

●尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。

（同音）おかげで、ごちそうさまでした。

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

日高組真宗法座に70名がお聴聞

日高組真宗法座は、平成8年から開催され、昨年12月で第25回を数えました。当初は「日高組真宗の集い」として開催され、組内住職僧侶をはじめ、門徒総代会・仏教婦人会・仏教壮年会・第3期れんけん修了者らが集い、第4回から日高組真宗法座と名称が変更されています。

毎回著名なご講師をお招きして、組内教化団体の皆さんが一同に集まり、お聴聞させていただくご縁をいただいています。

なお、当初は毎回一〇〇名を超える参加人数でしたが、年々減少傾向にあり、ご縁づくりのためにも法座の内容等に工夫が必要だという声も上がっています。

門徒総代会後期研修会

門徒総代会では、前後期2回の研修が毎年行われ、主に組内の住職を講師に研修会がなされています。

門徒総代としての研鑽に加え、布教大会で青年布教使数名が登壇するなど、お聴聞の機会としても大切な研修が毎回行われています。

子ども・若者　ご縁づくり

「手を合わせ、お念仏申す人になってもらいたい」

これが私たちの共通の願いです

日高組通信

☆行事報告

◎第25回日高組真宗法座（第6回れんけん）

日高組主催の日高組真宗法座が12月8日、衣奈の西教寺にて開催され、門信徒ら70名が聴聞しました。この日は釈尊が35歳の時、菩提樹の下で悟りを開いた「成道会（じょうどうえ）」ご講師の大阪教区義本弘導師は「今日は成道会」という講題で、釈尊の説かれた教えと、執らわれの心尽きない凡夫である私が救われる道をお取り次ぎいただきました。なお、第10期れんけん受講者も参加し、熱心にお聴聞するひとときでした。（7面に関連記事）

◎第3回組内会

12月21日、組内の住職による組内会が小浦の円行寺にて開催され、本山の護持口数調整などが行われました。

◎門徒推進員養成連続研修会（れんけん）

第7回れんけん（連続研修会）が2月1日、小浦の円行寺にて開講され、23名が研修を受けました。話し合い法座では「自分だけが幸せでよいのでしょうか」のテーマで活発な意見交換がなされました。（6面に関連記事）

◎門徒総代会後期研修会

2月2日、小浦の円行寺にて総代会後期研修会が開催され、30名を超える参加があり、岩崎部長から四十八願中、十七・十八（本願）・十九・二十願のいわれを聴聞しました。

◎第4回組内会・日高組実践運動僧侶研修会

2月15日、小引の円明寺にて日高組僧侶による標記研修会が開催され、過去帳等の取扱についての研修がなされました。

☆行事予定

◎寺族婦人会報恩講・総会研修会

3月3日（月）阿戸の教専寺で報恩講と総会研修会を開催予定。

◎日高組実践運動推進委員会・協議会

3月7日（土）午後2時から阿戸の教専寺にて、日高組御同朋の社会をめざす運動（実践運動）推進委員会を開催予定。

第3期実践運動推進計画の検証評価、第4期実践運動推進計画の策定を行います。

◎令和元年度日高組定期組会

組役員物故者追悼法要

3月28日（土）午後2時から志賀の即生寺にて定期組会を開催します。

僧侶・門徒組会議員により、今年度事業経過報告、決算並びに次年度事業計画、予算案が審議されます。また、組長・教区会議員（僧俗）任期満了に伴う選挙が行われます。

なお、組会に先立ち、組役員（住職・僧侶・寺族・責任役員・門徒総代）の物故者追悼法要が勤まります。

◎門徒総代会総会

4月25日（土）門徒総代会の総会が開催予定。会所は未定です。

◎仏教婦人会総会・会員物故者追悼法要

4月29日（祝）仏教婦人会総会が開催予定。令和元年度の物故者追悼法要が勤修されます。会所は未定。

読者の声

※「過疎問題を考える」を読みほんとうに色々と反省させられました。私も子供達に気を遣いすぎているな等々。色々と考えさせられます。ありがとうございました。

※「食事のことば」私の小さい頃は、食事の時は「いただきます、ごちそう様」を言わないと注意されました。今70才になって、その言葉を忘れる事があります。食事できる事に対して感謝を忘れないように気を付けようと思います。

※お寺の事に素人な私達にも興味が沸くお話を掲載して下さったり、わかりやすいたとえ話にして下さったり、ありがたく心に残る気がします。

「信心の過疎化」とシリーズにありましたが、ドキッとしました。ハサミムシを見る目がかわりました。涙が出ます。

※毎回読ませて頂いております。ありがとうございます。仏様には子供共々毎日朝晩お参りする様にしています。

※「法悦クイズ」いつも楽しみにしています。令和の新しい門出にふさわしい良い年になりますようにお祈りします。

※今夏、高温と災害続きで初秋感のないまま先日突然木枯らし一号に見舞われ、続く晩秋感の朝夕でございますが、皆様にはお変わりありませんか。

ひかり編集委員会（広報部）では読者の皆さんからの投稿を募集しています。「法悦クイズ」に是非チャレンジしましょう。同時に、ご意見ご感想を添えていただければ幸いです。

“煩悩”を　差別の言い訳にする　愚かさよ